住宅全焼４人死亡　２人はこの家の９８歳と７１歳の女性

今日未明、東京日野市の住宅が全焼し、四人が死亡した火事で、このうち２人はこの家に住む９８歳と７１歳の女性と確認されました。警視庁はこの家に住む３世代の家族とみて、残る２人の確認を進めるとともに、火事の原因を調べています。

今日午前２時４０分ごろ、東京日野市落川にある市川宏之さん（７４）の二階建ての住宅から火が出て、一階と二階の合わせて１２６平方メートルが全焼しました。

消防車など２３台が出て、火はおよそ２時間半後に消し止められましたが、警視庁によりますと、現場で２人が死亡したほか、高齢の女性二人が搬送先の病院で死亡し、合わせて四人がなくなりました。

警視庁が確認を進めたところ、四人のうち病院で死亡した女性二人は市川さんの母親にあたる千里さん（９８）と市川さんの妻の実苗さん（７１）と確認されました。

この住宅には、ほかに市川さんと４０代の長男が住んでいたということで、警視庁は残る二人の確認を進めるとともに、火事の原因を調べています。

手紙のやり取りでコミュニケーション力を優秀作品を表彰

手紙でのやり取りを通じて、子供のコミュニケーション力を育もうと、大切な相手への手紙をテーマに全国から募集した作品の表彰式が東京千代田区で行われました。

この取り組みは、スマートフォンなどが普及する中、手紙やはがきを通じて素直な思いを伝えることで、子供のコミュニケーション力を育もうと日本郵便が全国の小学生を対象に毎年行っています。今回は、全国から２２００余りの応募がありました。

応募作品は、実際に自分が出した手紙やはがきと、送った相手から返事が届いた時の気持ちなどをまとめたもので、２７日の表彰式には、最優秀賞に選ばれた１８人が出席し、手紙を書いたときの気持ちなどを発表しました。

このうち、徳島県の一年生、藤本渚沙くんは、祖父に宛てたはがきの中で、車の上にいた揚羽蝶の幼虫が元気に葉っぱを食べていた様子を絵とともに伝えていて、藤本くんは、返事をもらったときに温かい気持ちになったことを発表していました。

また、東京荒川区の五年生、村田結萌さんが祖母に宛てたはがきには、以前、教えもらった折り紙の絵とともに、祖母に長生きして欲しいという気持ちが込められています。

村田さんは「これからもメールなどより手紙を書いて自分の気持ちを伝えたいと思います」と話していました。

スキージャンプ男子W杯小林陵侑三位４６歳の葛西七位

札幌市で行われたスキージャンプ男子のワールドカップで、個人総合ランキングのトップに立つ小林陵侑選手は三位に入り、四試合ぶりに表彰台に上がりました。また、４６歳の葛西紀明選手も七位となり、今シーズン初めてトップ１０に入りました。

２２歳の小林選手は、伝統のジャンプ週間を四戦全勝で総合優勝するなど、今シーズンのワールドカップでここまで九勝を挙げ、個人総合ランキングでトップを独走しています。

昨日は五位に終わり、三試合連続で表彰台を逃した小林選手は、巻き返しを誓って今日、札幌市の大倉山ジャンプ競技場でワールドカップに出場しました。

小林選手は一回目１２４メートル５０で八位にとどまりましたが、二回目に１２９メートル５０と飛距離を伸ばし、合計２３６．６ポイントで三位に入り、四試合ぶりとなる表彰台に上がりました。

また、今シーズン苦戦が続く４６歳の葛西紀明選手は一回目で１３１メートル５０を飛び１０位に付けると、二回目も１２７メートル５０と大きなジャンプを揃えて、およそ１年ぶりのトップ１０となる七位に入りました。

優勝はオーストリアの２５歳、シュテファン・クラフト選手で、２６日に続く連勝で今シーズン三勝目を挙げました。